

国道19号桜通自転車安全利用協議会

とりまとめ

1. 自転車レーンの利用状況

- 自転車レーンは、歩行者と自転車との分離を図ることにより歩行者の安全性向上を図ることを目的に整備。
- 整備前は、ほとんどの自転車が歩道を走行し、歩行者と混在。
- 整備後は、最大約6割の自転車が自転車レーンを走行しており、歩道内を走行する自転車は大幅に減少。
- 歩行者の安全性向上に寄与し、整備目的は概ね達成。
- 自転車レーンの整備目的の達成度を確認する為、利用者アンケートで意識調査を行ってはどうか。

2. 放置自転車対策

- 本地域は、地下鉄駅周辺での通勤・通学等により駐輪需要の多い地域であり、駅周辺に長期間放置自転車により歩行者が阻害されている状況であった。
- その為、自転車通行空間整備とあわせ、自転車駐輪場を整備。
- 整備後においても放置自転車問題の解決には至らず、歩行者を阻害する状況は一部において改善されていない。
- そもそも自転車の駐輪対策は、それぞれの関係者が相互に協力して、それぞれの責任に於いて行うこととなっており、今後も引き続き関係者により更なる対策が必要ではないか。
- 放置自転車の発生原因として、鉄道・沿道事務所・商業施設の利用者が考えられ、それを調査して関係者に必要な措置を働きかけることが必要ではないか。